

第3回多治見市役所本庁舎跡地等利用検討市民委員会 会議録	
日 時	令和6年6月4日（火）午後1時30分～午後3時30分
会 場	多治見市産業文化センター3階中会議室
出席委員	川口暢子委員（委員長）、原國夫委員（副委員長）、羽渕朋之委員、小坂光郎委員、八橋祐司委員、安藤英利委員、小口英二委員、田代伸一委員、加藤由紀委員、長尾純夫委員、網干牧夫委員
欠席委員	長崎恵美委員
事務局	柚木崎総務部長、福田総務部次長、長谷川新庁舎建設事務局長、山本課長代理、佐藤主任 日本工営都市空間㈱：3名
傍聴人	5人
報道機関	1社
会議結果 要旨	
1. 今後予定する委員会主催の市民WSの進め方や市主催の高校生WSの実施時期に関する意見交換がなされた。委員会主催の市民WSの議題では、対象、募集人数について決議がとられた。 2. 今後の跡地等利用を検討するうえでのベンチマークや事例紹介によるイメージの具体化に関する意見交換がなされた。 3. 前回のWS結果を踏まえた質問や、提言書の影響力、市役所各課紹介の実施時期、市民WSの実施方法について、質問があった。	
議事 次第	
1. 開会のあいさつ	
2. 委員会の役割	
3. 委員会スケジュール	
4. 市民ワークショップについて	
5. 市役所各課照会について（庁内の意見照会）	
6. 情報共有 （1）第1回・第2回の振り返り （2）第2回委員会のワークショップ結果	
7. まちづくりで大切なこと（課題案）	
8. その他の質疑応答・意見交換	
9. 今後の予定	
10. 閉会	

意見

1. 委員会主催：市民 WS

(1) 対象：高校生の参加者の確保

- ・市民 WS について、高校生を上手に取り込んでいくことは大事だと思う。
- ・市民 WS の参加者に確実に高校生を取り入れる工夫が必要である。
- ・各校の校長への何人出してほしいと正式な参加依頼を出さないと、高校生の参加者数が見込めないのではないか。

⇒各校校長へ高校生の参加を正式依頼し、高校生の参加者数を確保する。(事務局)

(2) 募集人数

- ・市の提案の参加者数定員 20 人は少ないとの意見が多数。

⇒各グループのファシリテーターは委員が努めるものとして、1 グループ 5 ～ 6 人で、募集定員は幅を持たせた人数での募集とする。(合議)

(3) 周知方法

- ・周知方法の事務局提案の広報たじみへの掲載や、市 HP、Facebook への掲載では、高校生に情報が届かないとの意見が多数。

⇒委員の協力も踏まえ、学校へのチラシの配布や、インスタグラム等での告知を検討する。(事務局)

(4) 会場

⇒募集人数を踏まえ、産業文化センター 5 階のホールや市役所 2 階の大会議室なら多くの人に参加いただけるので、その会場で抑える事を検討したい。(事務局)

2. 市主催：高校生 WS の実施時期

- ・高校生 WS は市民 WS よりも実施時期が前であるため、高校生 WS の参加者に市民 WS への参加を強めに要望するなど工夫が必要である。逆に 2 度の参加でステップアップ的な機能（同世代とざっくばらんに広い世代と話し合う場）が誘導できれば、より多くの高校生が参加してくれるのではないかと。

3. ベンチマーク・事例の紹介

- ・ポジショニングイメージの説明があったが、さらにベンチマークとなる事例の位置が落とし込まれると、現本庁舎跡地等利用のイメージがしやすくなるのではないかと。

⇒事例等の紹介は第 6 回委員会で予定 (事務局)

質疑応答	
1. 提言の影響	
委員	・提言を作っていくということが委員会の役割とある。提言とは実際にどういう影響力があるのか教えていただきたい。
⇒事務局	・実現可能性を踏まえて、可能な限り参考にさせていただくというものである。
2. 委員会主催：市民 WS（参加者の居住地）	
委員	・居住地を問わないというのは、市民の中でのことか。条件をつけないと半分以上が市外の人となる可能性があり、その場合違和感がある。せめて半分は市民でないとおかしいと思う。
⇒事務局	・近隣に住んでいる高校生は本庁舎のすぐ近くを通り帰っていくという現状である。跡地に拠点が出来れば、多治見市在住でなくても利用するはずであり、市外の人でもいいと思う。
⇒事務局	・市民のみではなく、在住、在勤の人も考えている。市の内部で検討した際に、それほど多くなることはない、それよりも市外の来訪者の目線のほうが大事なのではないかという意見がでた経緯から、市外の人を対象とした。
2. 市役所各課照会の実施時期	
委員	・市役所各課照会については、いつ頃を予定しているか
⇒事務局	・速やかに実施し、2回の市民 WS が終わったあとの第6回委員会で提示する予定である。
3. プラットフォーマーの不足	
委員	・プラットフォームとは簡単にいうとどのようなものか。また、ボランティア団体がたくさんいるが、プラットフォームがないとはどのようなことか。
⇒委員	・134 団体のボランティア団体が社会福祉協議会に所属しているが、それぞれ自分の方向を向いて活動しているような雰囲気がある。社会福祉協議会も研修を行うなど、横のつながりをつくろうとされているように感じる。若者に魅力のある都市にするため、各団体が連携して全体の方向をまとめていく、プラットフォームが必要と感じて、前回のワークショップで意見を出した。

情報共有	
1. 多治見市名所再生計画図の紹介	
事務局	・今後の跡地利用を考える上で、委員より多治見市の名所について提案をいただいた。
⇒委員	・議論の参考資料として、市の名所リストを図に落とし作成した。新庁舎の跡地が、名所の拠点となるように、今後委員会を進めていきたい。